

平成 24 年「ガラス産業連合会新年会」報告

(一社) ニューガラスフォーラム

Report on the New Year Party of the Glass Industry Conference



(左から、板硝子、硝子繊維、電気硝子 NGF、硝子製品、ガラスびんの会長)

東京で初雪となった、1月20日(金)、午後4時から6時まで、皇居お堀端近くの東京會館で第11回「ガラス産業連合会(GIC)新年会」が開催されました。ガラス業界の共通の事項を実施する連合体としてGICが設立されてから、目玉事業の一つとして統一新年会が始まり、今ではガラス業界の風物詩とも言える集いとなりました。各団体別に新年会を行っていた時と比べると、掛け持ちで関係団体の会に出席



(山中衛 GIC 会長)

する手間も省け、また、費用分担により経費節約にもなると好評です。主催は、板硝子協会、硝子繊維協会、(一社)日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、電気硝子工業会、(一社)ニューガラスフォーラムの6団体で、順番に司会を担当します。今年は、上杉勝之・ニューガラスフォーラム専務理事の司会で、山中衛 GIC 会長(ニューガラスフォーラム会長・HOYA 相談役)の挨拶の後、黒田篤郎・経済産業省大臣官房審議官の祝辞がありました。その後、岡本毅・GIC 副会長(日本硝子製品工業会長・岡本硝子社長)の「ガンパロー」の発声で乾杯して懇親会に移り、牧島亮男・北陸先端

科学技術大学院大学シニアプロフェッサーによる中締めでお開きとなりました。山中会長の挨拶の概要は、以下のとおりでした。

「…昨年は、東日本大震災と原発事故、紀伊半島大水害、急激な円高と、国内ではかつて経験したことのないような厳しい出来事に見舞われました。国外でも、ニュージーランド地震、タイ洪水、ユーロ安、アラブの民主化など、自然、経済、政治の面で激動した年でした。

しかし、新年を迎えて、気持ちだけは新たに

して、業務に取り組みたいと思います。ガラス業界に共通する課題へ対応するために「ガラス産業連合会」が設立されて、3つの視点から活動をしています。それは、「ガラス産業戦略の展開」、「ガラス産業における技術交流と新技術への取り組み」、そして、「ガラス産業への提言と情報発信」です。

とりわけ、昨年は、環境対応活動としてCO₂削減自主行動計画に関して、1990年度比13%カットから17.6%カットに厳しく修正した削減目標を確実に達成すると共に、削減状況をガラス産業連合会として公表しました。

ガラス産業技術戦略に関しては、連合会が一昨年作成した「ガラス産業技術戦略2030年」

の着実な実施に努めます。

連合会が支援している、ナショナルプロジェクト「革新的ガラス溶融プロセス」は、150年以上にわたり現在も使用されているシーメンス炉に代わる、全く新しい省エネ型のガラス溶解技術を世界に先駆けて開発するものであり、着実に成果を出しつつあります。

更に、広報活動として、「暮らしに役立つスマートガラス」を新たに取りまとめるほか、世界中の面白いガラス情報を一覧できる「ガラスの世界地図」の発表などによって、一般向けの広報に努めています。

本年もガラス産業連合会では、会員の6団体が一致団結して、「ガラスは人にやさしい」、「ガラスは地球にやさしい」、「ガラスには未来と夢がある」との連合会のキャッチフレーズのもとで活動いたします。

今回も、産・学・官・プレス・団体から関係者350名ほどが参加して盛況でした。一堂に会したガラス関係者の集団を目の前にして、心強さも感じました。そして、今回も、お開き近くまで多くの参会者が帰らなかったことが、何よりも会の成功を物語っていました。



(黒田大臣官房審議官)



(牧島北陸先端大シニアプロフェッサー)